【津ノ井】地域の未来づくり懇談会　開催概要

１　**日時**　令和６年８月19日（月）　18時30分～19時50分

２　**場所**　津ノ井地区公民館

３　**出席者**　地区19名　市10名【市民生活部長（地域振興課・協働推進課）、農林水産部長（農政企画課・林務水産課）】

４　**テーマ**　①空山桜公園と空山ウォーキングロードの整備拡充による健康づくりと憩いの森づくり

②「意上農場」果樹農園の高齢化に伴う放棄地解消対策としての担い手づくり、及び、植栽景観整備

５　**概要**

【地元あいさつ】

本日は、津ノ井地区として現在進行形の事業を外した２件を今回の未来づくりのテーマとして挙げさせていただいた。それに対し、市の担当の幹部の方にご来館いただいているので、これからいろいろ意見交換をして実りある会にしたい。

【市民生活部長あいさつ】

本日、二つのテーマについて、担当の農林水産部長にも来ていただき、しっかりとした議論ができるのではないかと考えている。時間の許す限り皆さんのご意見をしっかりとお願いしたい。

テーマ「空山桜公園と空山ウォーキングロードの整備拡充による健康づくりと憩いの森づくり」

【地元(説明)】

この事業は、平成25年に県の補助事業より取り組んでもらった事業で、集落型里山林の整備モデル事業ということで、県が４分の２、市が４分の１、地元津ノ井が４分の１の負担で400万円をかけて事業を行っている。内容としては、意上農場から空山の頂上までの農道の整備、広葉樹の植栽、展望台の整備として、憩いの広場と頂上の近くにベンチの設置等を行っている。

だが、これについてはまだ課題が残っており、まずは公園にトイレが設置されていないということである。津ノ井地区では、1899年の津ノ井小学校創立以来125年にわたり、小学校の創立記念日の４月28日に、小学校と地域が一体となり、空山のぼり遠足を実施している。当日は仮設トイレを設置しているが、非常に多くのトイレ待ちとなっている。津ノ井地区もそうだが、この空山公園については米里小学校や若葉台小学校も登りたいと要望されているが、一時間以上かけて登ってもトイレがないということが一番ネックとなっている。

また、頂上は非常に眺めがよく、この素晴らしい景観を市民の皆様に見ていただきたい。そのため、公園へ東屋を設置し、鳥瞰図や説明図の展開ができればと考えている。

ウォーキングロードの舗装や狭隘部の拡幅も挙げている。毎年６月と10月に、地元とまちづくり協議会が一体となり、4、50人で草刈りを行っているが、その時期を過ぎるとすぐに生い茂っている状態で、コンクリート舗装で草抑えができれば、年中上り下りができる。だが、公園にはベ

ンチを設置しているが高木になっていて市内を見下ろすことができないため、景観づくりのため高木の伐採、併せて四季を通した樹木の植栽ができれば新たな憩いの広場として活用できると考えている。これらのことが、中山間地域振興事業やまちづくり事業により整備をお願いできないだろうか。

【林務水産課】
空山公園、それからウォーキングロードについては、下に意上堤というのがあり、数年前に、ため池の担当をしていた時にその辺りによく出向いていた。立派な看板があり、いつか上がってみたいと思っていたが上がらずじまいで今日になってしまった。現場を見た職員によると、途中までは行けたが、途中荒れていたりして行けられない状態になっているということなので、このあたりの整備をどうしようかというところからまず始まるのではないかと思っている。

【林務水産課】
このウォーキングロードは平成25年に、当時「集落型里山林モデル事業」という県の補助金がありそれを活用し整備を行った。この事業は自治会、町内会長が主体となって行う集落周辺の森林環境設備や継続的な維持管理等の里山林への主体的な取り組みに対し支援する事業であり、主な整備内容は、景観のための花木、果樹、紅葉する木の植栽、広葉樹林内の整備、簡易施設として木製ベンチ、それから標識等の設置、このような事業をされている。平成25年7月に津ノ井地区の自治会が計画書を作成し、それに基づき整備を行い、計画通りに完成しているということを確認し、補助金をお支払いしている。
この事業は、既に廃止になっており今は同じ事業はないが、令和５年度から県の補助事業で豊かな森づくり協働税を活用した事業ができている。この事業を使えば同じようなことができるのではないかと思っているが、どういう整備をされたいのか、事業主体がどこになるのかというようなこともこの意見交換の中で確認させていただかないといけない。基本的には県内の集落等が里山整備構想に基づき、地域住民以外の団体と協働で行う森林整備ということになっているが、内容については、この場で意見交換させていただいた後で対象になるかどうかの確認が必要となる。この事業の窓口は鳥取県の東部農林事業所、八頭事務所農林業振興課になるため、最終的な申請は鳥取県になるが、一度、どのような整備をしたいかなど、内容を聞かせていただければ、市の方で一度相談はさせていただきたいと思っている。現在、この事業を使って取り組んでいる地区が市内に１地区あり、大体５ヶ年の計画で取り組んでいる。

【林務水産課】
令和５年度から始まった事業ということもあり、詳しい内容というのがまだわかっていない。東屋やトイレの整備、鳥瞰図が設置できるのかなど、大きなものになるのでそういったものも対象になるのかどうかや、絶対に必要なもの、あるいはなくてもいいものなどがあればそういった

ものも含め、この場だけでまとめることは難しいので、これ以降でも相談窓口として市の方においでいただければ、できることをしていけるのではないかと思っている。

【地元】
この事業はまだ未確定なため、地域としてもいくつか要望を挙げているが、具体的な形にしていきたい。鳥取放牧場まで行けば事務所のトイレを借りることはできるが、空山公園の８合目付近が主になるので、その辺りにトイレがほしい。地権者との協議も必要になってくるので、整理をしていきたい。

【地域振興課】
中山間地域の振興事業のメニューについて、輝く中山間地域創出事業補助金という事業があるので紹介させていただく。これは、中山間地域の振興を目的として、住民自らが創意工夫を凝らして地域活性化や交流に取り組む事業で、申請主体は、集落や住民団体やNPO法人など、そういった活動に取り組まれるところに対して補助金を支援するといったものとなっている。制度の内容については、どういうふうにして地域振興を図っていくかという計画を地域の方で話し合って作っていただき、それに対して支援するものだが、対象となるのがソフト事業のため、トイレの整備などといったハード整備には使えず、具体的にはイベントの実施や、地域の食材を活用したメニュー開発、伝統工芸品や伝統芸能の伝承活動等が対象となる。
これまでの実績で、津ノ井地区の取り組みの参考になりそうな事例を紹介すると、湖南地区のまちづくり協議会が地域にある箕上山の歴史資産の掘り起こしをされて、それを活用してトレイルロードを整備しようということで取り組まれている。トレイルロードを整備して、地区外から多くの方に来ていただき、さらにはこのトレイルロードで登山を体験された後に吉岡温泉に入って帰ってもらうと、そういったような地域活性化の取り組みに着手され、この取り組みの中でトレイルロードの登山道の樹木の伐採や案内看板の設置等に活用されている。
なお、この補助事業については、先ほど申し上げたようにハード整備は対象とならないが、仮に空山のウォーキングロードを活用したイベントをされたりといったことになると活用する可能性はあり、そういった場合には、景観づくりのための樹木伐採とかそういったものには活用いただけるかと思う。ただ、活用に際しては、先ほども申し上げたが、地域活性化に資する計画策定を地域の皆さんでお話いただき考えていただくことが必要となる。

【地元】
空山遠足は津ノ井小学校と保護者が一緒に行くところが他の地区とは違うところで、私も空山遠足で空山公園まではよく上がっていたが、空山公園から先の山頂まではウォーキングロードを整備してからもなかなか機会がなく、今回初めて登った。やはり空山公園までに上がる道とは違い、草が生えていたり整備をしないとなかなかここまでは上がってこられないと感じた。また、意上農場の駐車場に車を停めて歩いて上がるということになると、かなり時間をかけて登って帰

ってくることになるが、場所によっては綺麗に見えるところもあるが、木が邪魔をして景観が十分でなかったり、ベンチも木が覆っている状況だった。その整備を津ノ井地区を挙げてどうやってやっていくかということが課題かと思う。空山があるのが津ノ井の上地区の方になるので、なかなか下地区の人には地区として盛り上げようという感じにはならないのかなと思ったりもしている。その辺りについても何かいいアドバイス等がいただけたらありがたい。

【地元】
　樹木の伐採というような話が出ていたが、樹木の伐採をするには許可とかが必要な場所になるのか。一度花火の日に上がったことがあり、遠くだったが綺麗に全体を見渡せたという経験もあるので、何とか景観を保つために、地区の有志で伐採等を行うことは問題ないのだろうか。

【林務水産課】
　木が生えているのがおそらく個人が持っておられる山だと思う。中には保安林などもあるため、調べないとわからないが、何もない個人の山であれば所有者の許可を取っていただければ切って問題ないと思う。
（補足）伐採する場所によっては届出書が必要な場所もあるため林務水産課へご相談ください。

テーマ「「意上農場」果樹農園の高齢化に伴う放棄地解消対策としての担い手づくり、及び、植栽景観整備」

【地元(説明)】
　元々、津ノ井地域は梨づくりが盛んで、昭和40年代後半から農業構造改善事業に取り組まれ意上農場や広岡農場等大規模な果樹園の造成ができ、40年以上に渡り梨づくりをされている。しかし高齢化や、梨の作付けの難しさ等もあり、組合員が離脱されたり、後継者がいないなど、津ノ井地区全体で、全盛期には100以上の農家があったが現在は30戸くらいだと聞いている。主な地域を例に挙げると、現在、意上農場は11戸あったところが３戸となり、非常に荒れた状態なっている。果樹園を辞めてそちらに森林を植えるというお宅もあるようで、なんとか荒れた状況にならないためにも、やはり後継者づくりが必要である。県外から梨農家をしたいというようなこともあるようなので、県外への積極的なPRや、周辺の古民家や農家住宅の空き家を活用した支援策など積極的に行っていただきたい。鳥取県の梨は日本一と言われているので、この梨を何とか維持するような対策ができないかお聞きしたい。
　これらの果樹園はウォーキングロードの中にあり、梨の花が咲いたときには非常に見事な景観だが、だんだんと耕作放棄地になって荒れていたり、伐採されているところもあるので、できるだけこれを維持して何とか担い手支援対策をお願いしたい。また、果樹園が荒れているが、荒廃地対策として、ミカンや栗などの他の果樹等の転作について、持ち主の方は興味があると思うので、それらの事業の取り組みについて考えていただけたらと思う。

【農政企画課】

農業の後継者問題については、真剣に考えなければいけなくなってから何年もたっているが、なかなかこれといった決め手がなく、人口は減る中、高齢者は増え、農業をする人が減ってくるというような負のスパイラルになっている。かといってこれをそのまま放置しておくということはできないので国を挙げて、担い手の育成や農地の荒廃を防ぐ施策等、いろいろ取り組んでいる。既に皆様にもお願いをしているが、地域計画策定のためのアンケートをさせていただき、皆様のご意見も頂戴しながら、今後どのように、果樹園も含め農地を守っていくのかというような検討を今進めている。

【農政企画課】

（五本松果樹団地での新規就農者受入事例の取り組みについて資料に沿って説明。）

五本松果樹団地は青谷町と気高町の境の山の上に造成された果樹団地で梨等を栽培している。

平成30年度～令和２年度

・果樹園の継続に向けた話し合い、意向調査を実施。果樹園の評価、地図の作成等

令和３年度

・果樹部会員、JA、県、市担当者で五本松産地受入協議会を設置。５年間で５人の新規入植者の受入を目標とした「将来ビジョン」を策定

令和４年度

・負傷した果樹部会員A氏の梨園50aを維持管理園に設定。

・補助事業を利用し維持管理園の管理を開始。入植希望者２名が維持管理園の農作業に従事。

令和５年度

・４月からA氏の維持管理園に２名が入植して営農開始。

・新たに研修受入農業者B氏の梨園50aを維持管理園に設定。

・就農希望者が集まる県内外の就農イベントに出展し、入植者の募集を行った結果、４名の希望者あり。

・11月ごろから就農希望者の短期体験を実施。

令和６年度

・４名の希望者のうち２名を経営継承予定者としてB氏の果樹園で研修を開始。研修生は２年間の研修後に経営継承を予定。

・果樹部会員C氏の親族１名が後継者として親元就農研修を開始。

（活用した制度について）

≪産地主体型就農支援モデル確立事業≫

・産地受入モデル地区設置事業

新規就農者の確保に必要な活動を行うために要する経費を支援。補助上限20万円/地区。

・優良果樹園の維持管理（維持管理園）…優良園を新規就農者が使うようになるまでの間、維持管理をする経費を支援。10ａにつき、40万円。
≪とっとり農業体験事業≫
・滞在経費助成事業
　滞在に要する経費として、滞在される研修生１人当たり月に10万円を支援。研修期間は２年間。
・受入助成事業
　研修生の受入農家に対し、受入に要する経費を助成。１人当たり月額５万円。

【農政企画課】
　品目は絞られているが、現在行っている果樹等の栽培支援については、まずは柿があり、県の独自ブランドで輝太郎という品種がある。これに取り組まれると補助率が少し高くなっている。その他、ブドウや桃の補助があり、この中ではブドウが比較的なりが早いと思われる。ミカンや栗の話があったが、これらについて補助事業はないが、県の中部でやっているところがあったと思うので、普及指導等は対応してもらえると考える。梨を辞められるというのが大前提ではあったが、梨だと今の新甘泉であれば比較的補助率も高く、取引単価も上々な物があるので、ご検討いただければと思う。
　また、空き家対策としては、建築指導課が空き家対策事業を取り扱っている。もし空き家の候補があればご紹介いただければと思う。新規就農者の空き家ということだが、まずはある空き家を紹介していただき、検討してもらうことになる。なければ、地域の方に新規就農者を紹介し、良い物件はないか、こちらから相談させていただくようなことを以前やっていた。

【地元】
　光雲寺農場で果樹園をやっている。光雲寺農場は当初、津ノ井ニュータウンのところにあった果樹農家のために新しくできた団地で、当時14名の方が果樹園をやっていたが、病気や高齢で辞められる方があり、現在は半分の７名になった。辞めた果樹園が荒れており、中に入ろうと思ってもなかなか入れない状況でこのような果樹園があるとイノシシやシカ、病害虫も増えると思う。
　正直に言って、後継者がいない。果樹園をしようという人がおらず、果樹園がこのまま消えていくのではないかと不安に思っている。意上農場や光雲寺農場で梨をやられるような方がおられるかわからないが、もう少し市の方でPRをしてもらえないか。

【農政企画課】
　後継者を何とか見つけてほしいという強い思いを持っておられることがよくわかった。市としては、こういった農業をしたいので、良い土地や田んぼがないかというような新規就農を目指しておられる方が集まるとっとり農業人フェアや、大阪のマイナビのフェアなど県外からUターン、

Iターンをして農業をやってみたいという方が集まるところに参加をしてPRしている。先ほど説明した、青谷の五本松の方もこちらに参加されて、それなら作ってみたいという方がおられたので後継者として働いておられるというようなことがある。ぜひ、意上農場、光雲寺農場をはじめ、津ノ井地区におかれてもこういったイベントにお声がけをするので、ご参加いただき、PRをしていただければ一歩進めるのではないか。そのためには、果樹園の規模や収益など状況をまとめて、情報提供していただくということも必要になるのでそちらの方もよろしくお願いしたい。

【農政企画課】
この会で意見交換はさせていただくが、個別具体的にご相談をさせていただいた方がよろしいかと思うので、もう少し詳しい事業内容や、実際どれぐらいの農地で、あとどれぐらい頑張れるかとか、もう頑張れないとか、いつごろ引き継ぎたい等といった意向を確認させていただくための会を設けさせていただきたい。

【地元】
光雲寺農場は平地に造成していただいており、比較的作業がしやすく、環境としては非常に良い。大体２年放棄すると、梨の場合は再生できないと言われている。なるべくそのまま経営してもらえるとありがたい。長い経験のもとに、それぞれ良い梨を作っているので、研修をしないとすぐに作れるものではないが、今であれば良い状態でバトンタッチができると思っている。自分も高齢なので、若い人にバトンタッチしたいができていない。いろんな制度や補助金もあるが、すぐバトンが渡せるようにご指導いただけると果樹園が維持していけると思う。

【地元】
若葉台というたくさんの世帯を抱える大きな団地があるわけだが、そこの知人が言われるのは、野菜を作ってみたい、何か育ててみたい、そういう希望を持っておられる所帯はかなりあるのではないかなというふうに思う。
梨園をこのまま継続して今の状況を維持していくという話を聞いていると、本当にできるのかという心理状態になってしまうが、そういう担い手というか、「よし、やってみようか」というような舞台となれば、そのような人は身近にもいらっしゃるのではないかと思う。例えば、滝山に市民農園があるが、津ノ井の周りでも市民農園という形で開放するとか、または先ほどから出ているブドウや桃等に転換して、小分けをして株主になってもらうとかいっぱい先例があると思う。失敗も当然あるが、そういう発想で若い世代や、子どもいる所帯とかを募集すれば、やってみようかという方は集まるのではないか、そういう発想も大事ではないかと思う。

【農政企画課】
まず、経営者のお話でバトンタッチしたい意向があると伺ったので、ぜひ説明会をさせていただきたい。

また、野菜を作ってみたい人がいるとの意向も存じ上げている。鳥取市としては、市民農園を設置しているが、吉岡温泉にあるものがまだ空いているような状況なので、新たな市民農園をこの近くに作るのはなかなか難しいかもしれないが、民間設置もできるので、仮に地域の方での設置もご検討いただければと思う。また、株主になりそうな方のご意向があれば、新規就農者もいらっしゃるので、そちらにご紹介するような形もできるかと思うので、お声掛けをいただきたい。

【農政企画課】

光雲寺農場は現在７名の方が営農しておられるということだが、例えば７名の中でも、規模を拡張してもいいという方がいらっしゃれば、その方に農地を貸す等、やっていただける可能性はあるのかなと思う。

少し話は変わるが、野菜や米などの作り手を募集してもなかなか人がいないが、果樹園だと、青谷の五本松団地のように作ってみたい方もいらっしゃったりするので、まずは作れなくなったからすぐ放置をするのではなく、隣近所の作っておられる方にお声がけをしていただくということも一つの手と思う。

【地元】

意上農場は、現在３名の方が頑張っているが、２名の方は75歳を過ぎていてもう３年で辞めるというような話もあった。農業構造改善事業の最大規模の梨団地を何らかの形で維持できるか非常に難題ではあるが、３名の方も含めて市の担当者と話をしながら今後の取り組みを行っていきたいのでよろしくお願いしたい。

【市民生活部長】

様々なご意見をいただき感謝申し上げる。空山公園については、今後の整備についてしっかりとお話をしていただいて、市の方でしっかりとサポートをさせていただきたいので、相談していただければと思う。また、梨農園の後継者不足は、鳥取市全体にとっても喫緊の課題であり、市としてもこれを第一に何とかしていきたいと考えているので、今日がスタートいうふうに思っていただいて、今日のようなご意見を担当課の方に言っていただきたい。しっかりとサポートしていきたいと考えている。